くらしにやさしい街 … 志木、よりよい環境を未来に残すために

エコシティ志木通信

2019年6月1日
(No.94)
2019
＊
6月

NPO法人エコシティ志木
代表理事　天田 眞
〒353-0006 埼玉県志木市館 1-1-2-108
http://kappa-no.net/eco-shiki/

写真：天田 眞

志木につらなる川の風景（22）

新河岸川（福岡河岸跡）

前回掲載の渋井水門から約 1.3km ほど上流、右岸側に斜面林が続いた先が福岡河岸の跡。川に面した大正時代末に築造された石積擁壁護岸の上に３軒の回漕問屋があったが、その内の福田屋の建物が福岡河岸記念館として公開されている。新河岸川舟運関連の唯一の常設展示施設だが、当主の星野仙蔵は東上鉄道の誘致にも尽力した。養老橋をはさんで向かい合った左岸には古市場河岸があって、醤油醸造を営んでいた橋本屋の醤油を出荷していた。川沿いには醤油工場や、一時は銀行も経営していた橋本家の建物があったが、新河岸川の平成の改修工事で全て無くなった。写真は対岸から見た福岡河岸記念館。　（天田 眞）

ＮＰＯ法人エコシティ志木

2018 年度の活動報告

●2018 年度の活動報告

◆環境、施設の保全・管理及び創出事業

①里山の手入れ:「いろは親水公園こもれびのこみち」「西原ふれあい第三公園」の２か所の斜面林の日常管理作業（清掃、落葉掃き、下刈、中低木の除伐､急斜面保護､希少植物の保全等）を行いました。（計 3 回/月）

②河川敷の清掃：柳瀬川右岸志木中学校付近と新河岸川右岸富士下橋下流の 2 か所で河川敷のごみ拾いを行い、県の「川の国応援団」の活動として報告しました。（計 2 回/月）

③外来植物駆除事業

(a)いろは親水公園「ヨシ･オギ群落保全地」保全作業：カヤネズミやオオヨシキリが棲むカヤ原の保全のため、5～8 月にオオブタクサの駆除作業を行いました。（計 4 回）

(b)柳瀬川・外来植物駆除作戦：柳瀬川右岸の志木中学校付近でのオオブタクサの駆除作業を、志木中学校生徒主体の作業と会員の作業で行いました。（計 4 回）

◆調査、研究事業

①侵略的外来生物県民参加モニタリング調査：埼玉県の事業に協力し、朝霞･新座･所沢･三芳･富士見の 8 か所で外来生物の定着状況について調査を行いました。（計 8 回）

②身近な川の一斉調査:「新河岸川水系」と「全国」の一斉水質調査に参加し、6 月 3 日に市内 7 か所の水質を調査しました。（1 回）

③市内いきもの調査：市内各所で植物を中心とした調査を行いました。（計 7 回）
また、志木中学校前では水生生物調査を兼ねて柳瀬川水族館を開催しました。（計 4 回）

◆観察会及び学習・教育事業

①柳瀬川であそぼう：親子向けの魚捕り体験等の川遊びイベントを企画しましたが、雨天のため中止しました。

②自然観察会：春は雨天中止、秋にいろは親水公園で自然観察会を開催、また、冬には柳瀬川で野鳥観察会を開催しました。（計 2 回）

③「カヤネズミ原っぱ環境応援作戦」: いろは親水公園「ヨシ･オギ群落保全地」で、カヤネズミの生息環境保全への意識醸成を図る親子向けのイベントを開催しました。（1 回）

④ぶらり散歩：「柳瀬川ぶらり散歩」の第 3・4 回として、狭山湖方面と多摩湖方面を歩きました。又、新河岸川･柳瀬川の合流点から下流方面、朝霞市内間木地区までの旧河川や旧堤防を歩く企画を実施しました。（計 3 回）

⑤小学生の環境学習への協力：小学校のクラブや総合学習、また、地域団体の柳瀬川での活動で講師を務めました。（4 件、計 17 回）

⑥市民講座等での講師：柳瀬川図書館まつりの企画で『志木の自然環境』について講師を務めました。（1 回）

⑦ボランティア体験者受け入れ：社会福祉協議会の「地域ボランティア団体体験プログラム」で体験者を受入れました。（1 回 3 名）

⑧イベントへの参加･出展:地域の催事等に参加し、出前水族館や標本展示、活動紹介展示や資料配布を行いました。（計 4 回）

◆出版、広報事業

①エコシティ志木通信の発行:会員向け本紙(12 ページ)と一般配布用イベントカレンダー(4 ページ)を発行しました。（計 4 回）

②ホームページ管理：エコシティ志木ホームページ及びブログで情報発信を行いました。

③活動紹介展示：催事で当会の活動状況の展示を行いました。（計 2 回）

④『志木生きもの図鑑』刊行事業（エコシティ志木創立 20 周年記念事業）:2019 年度の刊行に向けて、編集、校正作業を続けました。

◆エコミュージアム事業

①志木まるごと博物館 河童のつづら:見直し作業を予定したものの、十分にはできませんでした。

●2019 年度の活動計画

上記の 2018 年度事業のうち、『侵略的外来生物モニタリング調査』以外は全て 2019 年度も継続して取り組み、『志木生きもの図鑑』は年度中に刊行します。（天田　眞）

新河岸川のあらまし（１）

前号まで柳瀬川について連載してきましたが、今号からは新河岸川について、そのあらましを取り上げます。表紙もすでに新河岸川シリーズが続いており、ぶらり散歩の企画も本年度からは新河岸川を上流へ歩く予定にしています。この機会に、志木の歴史と共に流れ続けてきた新河岸川に関心を持っていただければと思います。

新河岸川の流域

新河岸川の流域は、川越の旧市街地（武蔵野台地）の北端から北へ 1.5km を北の頂点とし、南西端が狭山丘陵、南東の流末が赤羽北東の岩淵とした三角形を成しています。大半が武蔵野台地で荒川に沿った東辺が荒川低地で、新河岸川本川は、荒川低地を荒川に沿って流れ、殆どの支川は武蔵野台地を南西から北東へ流れ、本川に流入します。

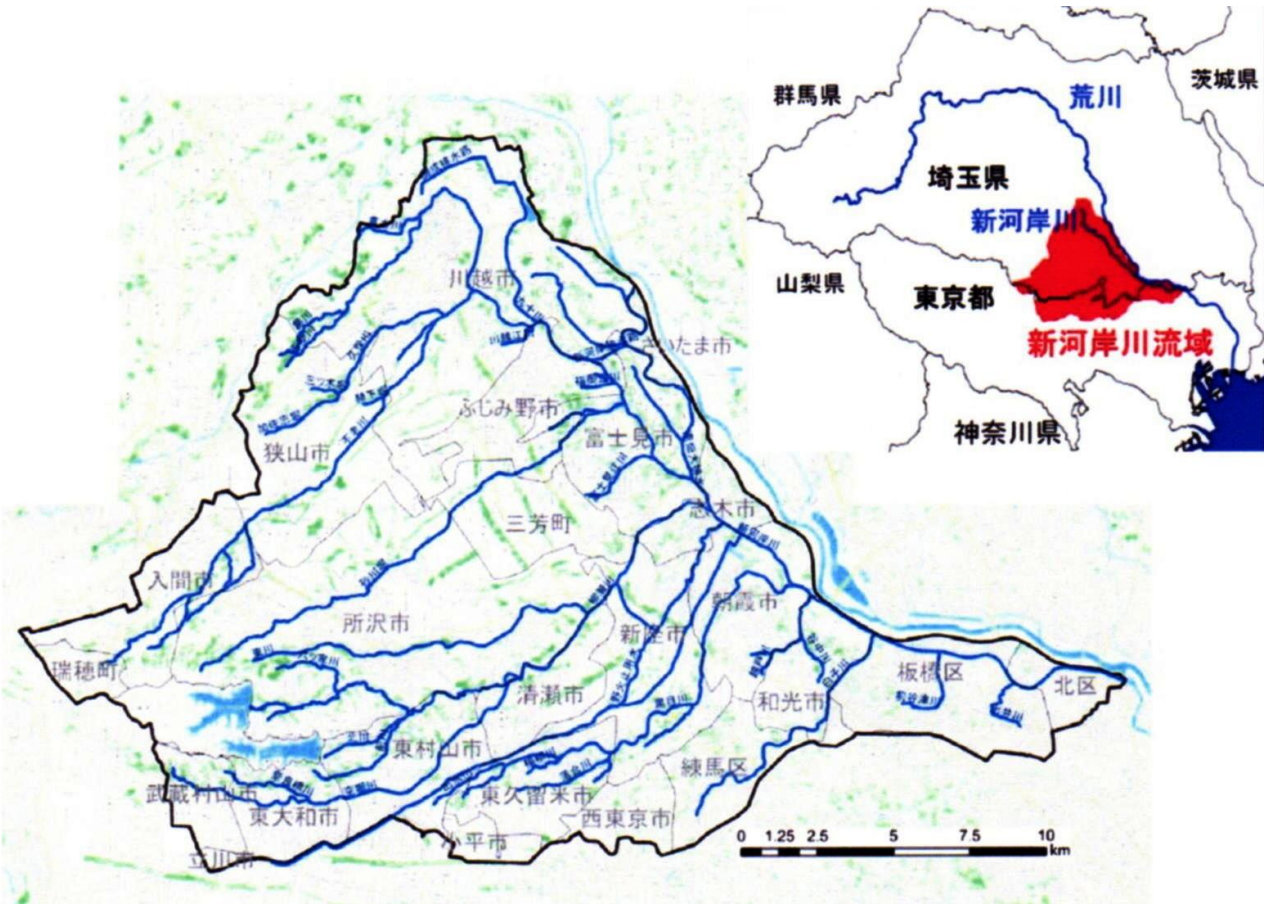
新河岸川の支川

主な支川として、右岸から流入するのが不老川（入間・狭山・川越など）
砂川堀（所沢・三芳・ふじみ野・富士見）
柳瀬川（東京都・所沢・新座・志木など）
黒目川（東京都・新座・朝霞）
白子川（東京都・和光）　の５河川で、他に川越江川・福岡江川・富士見江川・越戸川などがあり、左岸から流入するのが九十川（川越）・南畑大排水（富士見）など。

他に、洪水時に新河岸川の水を荒川に放流する新河岸川放水路とびん沼川（川越・富士見）があり、同様に洪水時に隣接した荒川に放流する朝霞水門（朝霞）があります。

新河岸川の最下流は東京都北区岩淵で隅田川に合流しますが、ここは荒川と隅田川が分岐する岩淵水門の約 150m程下流。隅田川は昔の荒川の下流部分に当たりますが、現在は東側に新たに開削された旧荒川放水路が正式に荒川となっています。

（天田　眞）



新河岸川流域図
新河岸川流域水循環マスタープラン（国土交通省荒川下流河川事務所）より

柳瀬川ぶらり散歩 第４回
～柳瀬川の支流北川から多摩湖へ～

3月21日、強風ながら好天となり、東村山駅から西武球場前駅まで、起伏に富む狭山丘陵を歩き、美しい湖と取水塔を眺め、ウグイスカグラの可憐な花々、何種類ものスミレ、初めて見るウスタビガの空まゆ等、豊かな自然に触れる散策となりました。

北川に接する北山公園・都立八国山緑地から都立狭山公園へ。

都立東大和公園のコナラ、アカマツが主の雑木林では開園来、萌芽更新を行い、更新年を表示、東大和市立狭山緑地では木道を整備、公有地化が進められているとか。多摩湖自転車道の鹿島橋では、車道や林床が眼下に、アカシデの雄花やウワミズザクラの蕾が目の高さにありました。

現在、堤体強化工事中の上貯水池堰堤。

歩行者通路のあちこちにヒメスミレが咲いていました。東大和市の狭山丘陵の渓谷、北川(旧宅部川)の源流部に造られた多摩湖(村山貯水池)。柳瀬川シリーズ最終回、そのダムの下、狭山公園南側にある現在の北川源流域の宅部池、そして北川の支川である前川の源流部にあたる二ツ池公園を訪れることができました。

川や堰堤やその地域の歴史、里山の自然の保全等に思いを巡らせる探訪となりました。

（庭野 恵子）

［写真：青木　明雄］

志木の自然観察（春）
～西原ふれあい第三公園など～

4 月 13 日（土）に柏町と幸町の二つの斜面林で観察会を行いました。武蔵野台地を柳瀬川が削ってできた段丘崖に残った斜面林で、元々つながっていたものが、現在は東上線・道路・マンションで約 130m程離れています。先ずは、『柏町ふれあいの森』へ。

ふれあいの森は民間所有の樹林を志木市が借地し開放している場所で、以前は数か所ありましたが、現在は他に『けいおうふれあいの森』だけで、将来的に保全が担保されているわけではありません。手入れ作業が行われず、ごみが捨てられたり、暗かったり、落ち葉が積もり過ぎたりで植生が単調です。そんな中、わずかながらも市内では珍しい野草も見られました。

後半は線路を渡り『西原ふれあい第三公園』へ。一時は開発の危機もあった場所ですが、区画整理事業の中で、10 年前に志木市の公園となり保全されました。ただ、南側の部分は、一旦大幅に造成した上で新たに植樹しており、

北側の線路に近い部分になるほど、昔のままに保全されています。ここは当会が手入れ作業をしていますので、その説明も含めて案内しました。作業の成果で樹林内に種々の春の野草が復活していますが、1 週間ほど日程が早かったか、花が少なめでした。　(天田 眞)

おやこ劇場こどもまつりに参加して

５月１２日（日）に、「志木おやこ劇場こどもまつり」が行われました。会場は、志木ニュータウンの館近隣公園で、今年も柳瀬川水族館を出展しました。前日に、柳瀬川の富士見橋下流の右岸と左岸で、展示用の魚を捕りました。水位が低く、川岸の草まで水が届かず、魚は５匹しか取れませんでした。その内の２匹はウキゴリの稚魚で、カワリヌマエビ程度しかありません。他の３匹は、ヌマチチブ２匹とウキゴリ１匹で、とても寂しい感じです。魚の不振を補ってくれたのは、モクズガニと立派なテナガエビとハグロトンボのヤゴでした。また、アメリカザリガニも、こどもたちの相手をしてくれました。平気で掴む子もいて、将来が楽しみです。毎年、このこどもまつりには出展していますが、水族館はとても人気があり、子供連れの親子が見に来てくれます。大人も、柳瀬川で捕れた生き物を見て驚く人も結構多いのです。出前水族館を通して市内を流れる柳瀬川を理解してもらうことは、きれいな川作りにも役立つ

大事な事業だと思います。魚は少なかったですが、いつまでも水槽から離れない子どももいて、出展を楽しむことができました。

（青木 明雄）

志木の生きもの調査を行ないました

3/17 中宗岡と下宗岡

宗岡公民館から宗岡三小、宗岡二中、下ノ宮氷川神社、新田治水広場、樋之詰児童公園のルートです。

青空に映えるミモザの花、カントウタンポポがあちこちに咲き、フキノトウが顔を出した畑脇の斜面等、田園風景の中での調査です。

篭嶌門樋の水路では、カワセミの飛翔を目撃することができました。

今回、ハハコグサとチチコグサモドキのロゼット状の葉は見分け難いことがわかりました。まだ葉の間に隠れている黄色の小さな蕾を見つけ、かろうじて同定。

［写真：青木　明雄］

5/13 柳瀬川・水谷田んぼ

志木中前から右岸を歩き、高橋を渡り、水谷田んぼを回って土手に戻り、富士見橋を渡り志木中前まで戻るルート。

クワの木には、まだ熟してはいないながら、たくさんの赤い実が付いていました。葉裏の白い糸のようなものの集まりは、クワキジラミの幼虫が分泌した紐状のロウ質物だそうです。

耕作放棄地のノイバラの大群生、シロツメクサ等に寄生するヤセウツボの多さが眼につきました。志木中前河川敷のナヨクサフジは、一面紫色だった昨年ほどではありませんが、群生しています。

繁殖期のアオサギの目先や嘴がピンクで、ハッとするような美しさでした。　　（庭野　恵子）

特集　志木生きもの図鑑紹介(1)

樹木・キノコ・は虫類・クモ昆虫（ガ・甲虫目・ハチ目他）他　Aチーム

NPO法人エコシティ志木代表理事
天田　眞

このグループの担当分野は次の通りです。
樹木、キノコ、は虫類（カメは除く）
貝類、環形動物、扁形動物（地上のもの）
節足動物の多足類と甲殻類（地上のもの）
クモ類、昆虫（チョウ・トンボを除く）

樹木

この図鑑は、基本的には自然の生きもの（自然の中で誕生し成長する生物）を対象としており、樹木も自然の環境で発芽し成長する（実生）樹木を基本にしていますが、自然の場が少ない志木では、身近に目にする樹木は植樹したものが多いことから、一部に自然には見られない樹木も含んでいます。

タケ・ササ類を含めて54種掲載予定で、写真は1種に付き3枚前後とし、全体の雰囲気と葉・花・実などがわかりやすいように考えています。

着手時点では写真は殆どなく、大半がこの図鑑のために撮影しました。撮影にかかってみると、樹木の特徴を3枚程度の写真で現すのはなかなか困難でした。落葉樹は半年しか葉がありませんし、花の時期はあっという間に終わってしまう。斜面林の中の木は周囲の緑と渾然としてしまう。大きな木では全体を写すと部分が全く分からない。光の条件も大事で、逆光だとわかりずらく、光が強いとコントラストが強すぎたりと、結構苦労しました。

キノコ

キノコは動物とも植物とも異なり、菌類として分類されます。市内でもよく見られ、写真はかなり撮っているのですが、知識が乏しいため同定が難しく、17種掲載の予定です。

は虫類

は虫類はヘビとトカゲの仲間を6種掲載予定で、カメについては、別に水辺の生きものという括りで取り上げています。

アオダイショウ

ナミヘビ科　体長200cm
南西諸島を除き日本最大のヘビ。木に登ることができ、性格はおとなしく、毒は無い。人の暮らす環境でも共生していたが、都市化の進行で生息環境が失われ、急速に減少している。【準絶滅危惧】

いろいろな生きもの

この図鑑では、身近な自然の中で見られる生き物は、なるべく広く紹介したいので、通常あまり取り上げられない生き物も掲載しています。中には嫌われるものもありますが、それらも全て生態系の中の重要な役割を持っています。22 種予定。

軟体動物の貝類		カタツムリやナメクジなど
環形動物		ミミズ
扁形動物		コウガイビル
節足動物	多足類	ムカデ・ゲジ・ヤスデ
節足動物	甲殻類	ワラジムシ・ダンゴムシ

クモの仲間　16 種掲載予定

ササグモ

ササグモ科　体長♀8～11mm·♂7～9mm
草むらに生息し、葉の上で獲物を待ち構える。

アズチグモ

カニグモ科　体長♀6～9mm·♂2～4mm
草や樹木の花に潜んで花を訪れる昆虫を捕らえる。

甲虫目

コガネムシ・クワガタムシ・カミキリムシ・テントウムシ・ハムシ・コメツキムシ・ゾウムシ・オサムシ・シデムシ科など、約 55 種。

ハチ目

スズメバチ・ツチバチ・ドロバチ・ミツバチ・アリ・ハバチ・コマユバチ科など、約 30 種。
他に虫こぶをつくるハチ

ハエ目

ニクバエ・クロバエ・ケバエ・ミバエ・ヤドリバエ・ムシヒキアブ・ハナアブ・ガガンボ科など、約 20 種。

バッタ目

バッタ・コオロギ・キリギリス科など、約 15 種。

カメムシ目

カメムシ・サシガメ・ハゴロモ・ウンカ・ヨコバイ・グンバイムシ・セミ・カイガラムシ・アブラムシ・キジラミ科など、約 55 種。

そのほかの昆虫

カマキリ・ナナフシ・アミメカゲロウ・ゴキブリ・ハサミムシ目など、約 10 種。

虫こぶをつくる昆虫

タマバチ・タマバエ・アブラムシ・キジラミ科など、約 20 種。

クヌギハケタマフシ〈クヌギハケタマバチ〉

タマバチ科　植物：クヌギ
内部に 1 幼虫が棲み、晩秋に羽化した成虫が虫こぶ内で越冬する。

※　『目』は生物の分類で『科』の上の階級

昆虫

昆虫は大変種類が多く、チョウのように見た目がきれいで好まれるものから、ケムシのように嫌われるものまで様々です。どのような生きものもじっくり観察して、本当の自然好きになってほしく、出来るだけ多く収録したかったのですが、スペースの制限から、約 300 種程（別グループ担当のチョウとトンボの 40 種を含む）になっています。また、一部は写真が小さめになってしまいました。

昆虫は幼虫期間があり、全く姿を変えるものも多く、ガのように成虫よりも幼虫の方が目にすることが多いものもあり、幼虫の写真もできるだけ入れるようにしています。

ガの仲間（チョウ目）

（本来はチョウを含めチョウ目という分類に入り、チョウとガには基本的な違いはありません）

スズメガ・ヤガ・シャクガ・ドクガ・ヒトリガ・ヤママユガ・シャチホコガ・カイコガ・ツトガ・ミノガ・マダラガ科など、約 60 種。

外来植物駆除

いろは親水公園カヤネズミ原っぱ

５月 14 日、カヤネズミ原っぱでの今年度第１回目の外来植物駆除（オオブタクサの抜取り）作業を参加 10 名で行いました。暑からず寒からず、作業にはうってつけの曇り模様の天候で作業は捗りましたが、全体から見ればほんの一部。今後も定期的な作業が必要ですので、皆様のご参加をお願いいたします。

オオブタクサはまだ 20 ㎝ほど。大きくても 50cm 程度で、オギやヨシよりも背が低いですが、生長すると３ｍを超えるようになり、他の植物の日照を妨げます。また、結実した後は如何に抜取っても地面に種が残り、来年また繁茂することになってしまいます。そのようになる前に抜取ることが必要ですが、限られた人員や時間での作業ではなかなか思うようにはいきません。苦しいことの多いようですが、井戸端会議よろしく和気あいあいのおしゃべりやクワの実の熟し具合を品定めしたり。クワの実は手の届くところにもたくさん生っています。まだ熟していませんが、次回作業の楽しみです。ヨシ原にはそのうちにオオヨシキリが

［写真：青木 明雄］

飛来し、賑やかに囀ることでしょう。一昨年の出水以降カヤネズミの巣を見かけませんが、是非戻ってきてほしいものです。このようなヨシ原を維持してくためにも、外来植物の駆除を進めていきたいと思います。（鈴木 民雄）

川のボランティア体験講座に参加して

【日時：５月２６日（日）１３時～１６時３０分、場所：柳瀬川図書館及び柳瀬川の河川敷】

天気快晴なるも、気温は 30℃を越え夏日となりました。この暑い中、総勢約３０名の方が参加しました。タイトルは「川のスペシャリストと一緒にゴミを調べよう」で、埼玉県環境部水環境課とＮＰＯ法人エコシティ志木の主催で実施されました。　埼玉県は４名、エコシティ志木は８名参加された。また、テレビ埼玉が取材に来ました。最初にエコシティ志木の天田代表より柳瀬川について、源流から新河岸川合流点までの説明、次に青木事務局長より柳瀬川の様子と生きものについて説明がありました。その後、埼玉県よりプラスチック廃棄物の現状及びその処理について説明があり、特に最近話題になっているマイクロプラスチックについては詳しく説明をされていた。最後にエコシティ志木より河川敷でのごみ拾い及び自然観察、使い捨てプラスチックの現状及び規制状況についての報告がありました。講座の後、柳瀬川の河川敷にてごみ拾いを実施しました。収集後のごみを分析しましたが、やはりプラスチック類のごみが

［写真：青木 明雄］

多かったです。

また、思ってたより大勢の方が集まり、川のごみに対する関心度が高いことがわかりました。

（本間 敏文）

❶アオダイショウ　4 月 21 日
こもれびのこみちの手入れの作業中に。2 匹。［青木 明雄］

❷テナガエビ　5 月 11 日
柳瀬川で、移動水族館用いきもの採取にて。［青木 明雄］

❸ヌマチチブ　5 月 11 日
柳瀬川で、移動水族館用いきもの採取にて。［青木 明雄］

❹ウキゴリ　5 月 11 日
柳瀬川で、移動水族館用いきもの採取にて。［青木 明雄］

❺ハグロトンボのヤゴ　5 月 11 日
柳瀬川で、移動水族館用いきもの採取にて。［青木 明雄］

❻モクズガニ　5 月 11 日
柳瀬川で、移動水族館用いきもの採取にて。
［捕獲：天田 眞、写真：青木 明雄］

❼アオサギ　５月１３日
柳瀬川にて、生きもの調査の時。［青木 明雄］

❽ヤマガガシ 5 月 19 日
新河岸川右岸土手ゴミ拾い作業にて。
［発見：本間 敏文、写真：庭野 恵子］

❾ウマノスズクサ　5 月頃　ウマノスズクサの調査にて。［天田　眞］
柳瀬川左岸堤防（富士見市）に４０～７０株程度が３か所、
２０株程度が１か所。
柳瀬川右岸堤防（志木市）に３０～５０株程度が１か所。
他に新河岸川や荒川の堤防にも群落があります。

❶アオダイショウ

❷テナガエビ

❸ヌマチチブ

❹ウキゴリ

❺ハグロトンボのヤゴ

❻モクズガニ

❼アオサギ

❽ヤマカガシ

環境

ひとくちメモ（52）　伊藤 智明

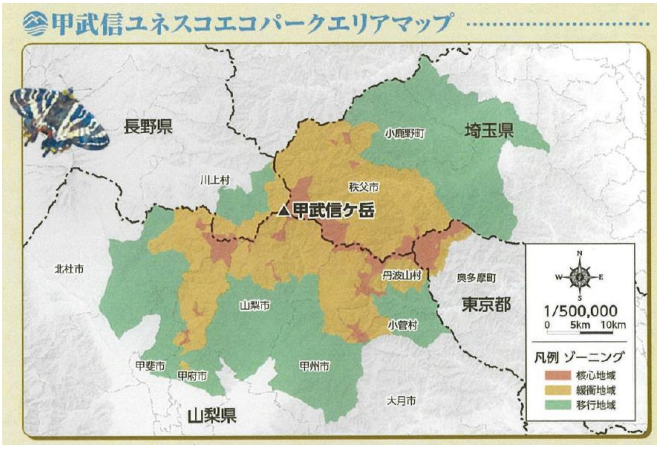
「ユネスコエコパーク候補「甲武信（こぶし）」」

ユネスコが実施する生物圏保存地域（ユネスコエコパーク）に、日本から推薦していた「甲武信（こぶし）」（構成地域：山梨県、埼玉県、長野県、東京都）が登録を「承認」するとの勧告がなされました。

「甲武信（こぶし）」は、甲武信ケ岳、金峰山、雲取山等の日本百名山が連なる奥秩父主稜を中心とした広大な山脈地域で、荒川、多摩川、笛吹川、千曲川を含む主要な河川の水源地でもあり、豊かな地層と岩石の種類により育まれた環境に多様な動植物が生息し、特にチョウ類の希少種の宝庫となっています。

評価のポイントとしては、水源地としてのエコシステムを保全し、林産物をはじめ天然資源を持続的に活用する努力をしている点が評価され、人口減少や農業、林業といった地場産業の後継者育成が課題となる中、エコパークが同地域の活性化を担うことが期待されています。

今後は本年６月の第 31 回ユネスコ人間と生物圏(MAB)計画国際調整理事会（6 月 17 日～6 月 21 日、於：パリ・ユネスコ本部）で正式に登録の可否が決定する見込みです。



画像：甲武信ユネスコエコパークエリアマップ

出典：環境省　報道発表資料　令和元年 5 月 17 日
「ユネスコエコパーク候補「甲武信」に関する勧告公表について」
http://www.env.go.jp/press/106799.html

☆会員状況

２０１９年度更新済（5 月 26 日現在）
正会員（個人）　３０
正会員（団体）　　2
賛助会員　　1

★本会の財政基盤は、会員の方の年会費が頼りです。
★２０１９年度の継続更新を、引き続きよろしくお願いします。

■当会の団体正会員
志木おやこ劇場
生活クラブ生協志木支部

■当会の団体賛助会員
慶應義塾志木高等学校

■当会が参加している団体・ネットワーク・登録制度、及び協力団体
志木おやこ劇場
いろは遊学館利用者の会
志木市コミュニティー協議会
志木市社会福祉協議会
柳瀬川流域ネットワーク
新河岸川水系水環境連絡会
新河岸川流域川づくり連絡会
柳瀬川流域水循環再生市民懇談会
彩の国南西部地域ＮＰＯ連絡会
川の国応援団
埼玉県生物多様性保全活動団体登録
彩の国みどりのサポーターズクラブ
志木市公園美化活動会
志木市放課後子ども教室りんくす
志木市教育サポートセンター
市内小中学校

情報満載！
当会のホームページ
ＮＰＯ法人エコシティ志木
http://kappa-no.net/eco-shiki/
志木まるごと博物館河童のつづら
http://kappa-no.net/

＜『生きもの図鑑』作業状況＞

「公益財団法人サイサン環境保全基金」からの助成が決まりました。

青木　明雄

生きもの図鑑の制作作業も 5 年目に入りました。来年 2 月頃には、刊行します。発行部数は 1,000 部で、市内の学校と図書館や公共施設等にも無料配布して、活用していただきたいと考えています。勿論、会員の皆様にも無料配布いたしますので、携行して市内散策を楽しんでいただければと思います。発行費用については、「公益財団法人サイサン環境保全基金」から全額助成していただくことが決まりました。当然のことですが、助成にあたっては、今年度中の刊行が前提ですので、待ったなしの状況となりました。差し当たって、6 月初までに、三校版のレビューを終えて、その結果を反映した四校版を作成し、6 月 22 日からは、四校版のレビューに入ります。三校版のレビュー完了を死守する為、これまでのレビューに加えて、5 月 22 日から 6 月 7 日までに 7 回の集中レビューを行って乗り切ろうと頑張っています。レビューを重ねていると写真をよりよいものにしたり、掲載順序を種の並びに再整理して見やすい形にしたり、より分かりやすい表現に直したり、表現の統一をはかったりと、800 種以上にもなった掲載種について、一通り見ていくのは、大変な作業です。それでも、プロジェクトメンバー全員、やれることは何でもやって、素晴らしいものにしたいと全力で頑張っていますので、期待をして見守っていただければと思います。

志木の昆虫記39

街で出会える楽しい虫たち

天田 眞

≪カブトムシとクワガタムシ≫

エコシティ志木が手入れ作業を行っている西原斜面林では、樹林の中に 20 か所ほど、落ち葉を積み溜めた山をつくっています。特に堆肥づくりが目的ではなく、斜面林の有機物を自然に返しているわけですが、この中で沢山の**カブトムシ**の幼虫が腐葉土を食べて育っています。カブトムシは 6 月頃に蛹になり、7 月頃に羽化して出てきます。成虫の期間は短く、真夏に産卵し、秋には死んでしまいます。成虫はクヌギやコナラなどが出す樹液に集まりますが、熟しすぎの果物も好みます。

10 数年ほど前からシマトネリコという樹木が庭木として盛んに植えられるようになりました。本来、沖縄など南方系の木ですが、温暖化で志木でも問題なく育つようで、新築住宅の玄関脇などに良く植えられています。最近この木にカブトムシが集まると話題になっています。クヌギなどの場合は別の虫が空けた穴から樹液が出ますが、この木はカブトムシ自身が薄い樹皮を傷つけると樹液が出るようです。

クワガタムシは夏～秋に朽木に産卵し、幼虫は朽木を食べて育ちますが、約 1 年ほどかけて秋に成虫になり、そのまま越冬して翌年の初夏に現れます。成虫はカブトムシと同様に樹液に集まり、その年の秋に死ぬか、そのまま越冬するものもいます。志木では小型の**コクワガタ**と中型の**ノコギリクワガタ**が見られます。クワガタムシの体長や雄の大顎の形状には変異が多く、別種のように思えることもありますが、それは幼虫時の餌の質や水分に関係があるそうです。ノコギリクワガタの大顎は普通は大きくカーブしていますが、直線的な個体も見られます。

カブトムシ幼虫

カブトムシ　♂

カブトムシ　♀

クワガタムシ幼虫

コクワガタ　♂

コクワガタ　♀

ノコギリクワガタ♂

ノコギリクワガタ♂(直線的な大顎)

ノコギリクワガタ♀

小笠原の旅

宇津木 美恵子

その１２　２代目おがさわら丸の最後の出航日の様子
（2016/6/26）―（２）

❶ おがさわら丸は竹芝に向けて 25.5 時間の航行を続ける。（現おがさわら丸は 24 時間に短縮）

❷ 夕陽が悲しさを倍増
カツオドリの姿も寂しげ
さようなら、父島、母島～～～
また来ます！！絶対に～～

❸ 翌日朝、すでに大島沖まで

❹ 東京湾竹芝に到着すると
「9 年間ありがとう」のお出迎え
2 代目おがさわら丸の最終航行でした。
3 代目の新おがさわら丸が、現在航行中。

❺ 東京湾にて、2 代目おがさわら丸の最後でした。

我々は再び小笠原へ向かいます！(^o^)／

編集後記

◇小笠原の旅は、今回をもちまして終了となりました。読者の皆様にも、素晴らしい小笠原を楽しめたことと思います。また、環境ひとくちメモも今回の５２回をもちまして終了となりました。長い間ありがとうございました。今回から４回に分けて、生きもの図鑑のご紹介を行います。市内の自然を訪ねては、暫くお休みです。（青木明雄）

エコシティ志木通信
第94号 2019年6月1日
〈発行〉
NPO法人 エコシティ志木
〒353-0006 埼玉県志木市館 1-1-2-108
電話/FAX 048-471-1338（天田眞）
URL http://kappa-no.net/eco-shiki/
E-mail eco-shiki@ff.e-mansion.com